

# 平成30年度自然保護委員総会 第42回山岳自然保護の集い 中央大会

## 都道府県活動報告集



公益社団法人

### 日本山岳・スポーツクライミング協会

期日 平成30年11月23日（土）～25日（日）

オプション(武甲山など) 平成30年11月25日（日）

開催地 埼玉県 比企郡 小川町 （小川げんきプラザ）

#### 目次

1	茨城県山岳連盟	1
2	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	3
3	群馬県山岳連盟	4
4	埼玉県山岳連盟	5
5	公益社団法人東京都山岳連盟	6
6	神奈川県山岳連盟	8
7	山梨県山岳連盟	10
8	新潟県山岳協会	12
9	長野県山岳協会	14
10	福井県山岳連盟	15
11	愛知県山岳連盟	16
12	三重県山岳連盟	17
13	滋賀県山岳連盟	18
14	京都府山岳連盟	19
15	一般社団法人大阪府山岳連盟	36
16	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	37
17	岡山県山岳・スポーツクライミング連盟	41
18	一般社団法人広島県山岳・スポーツクライミング連盟	42
19	山口県山岳・スポーツクライミング連盟	43
20	徳島県山岳連盟	44

# 茨城県山岳連盟自然保護委員活動報告(2018年11月総会用)

2018(H30)年11月 茨城県山岳連盟 自然保護委員長 中沢隆一

## 1. 茨城県山岳連盟の自然保護委員の概況(H30-11/1時点)

- ・自然保護委員 合計35名(内1名は日山協自然保護常任委員)  
内訳:岳連加盟30団体中9団体より34名、岳連の個人会員1名。
- ・日山協自然保護指導員登録 合計26名:7団体より選出、及び個人会員1名(H29から変更無し)

## 2. 地域・活動概況

茨城県は県南に多数の登山愛好家で賑わう筑波山を擁し、県北の福島県境の八溝山(1022m)を最高峰に標高1000m未満の阿武隈山系と八溝山系の穏やかな山容に恵まれ、低山、里山のハイキングから、高鈴山系の霊山、御岩山の岩場のロッククライミング、竜神峡の本格的な沢登りまで小規模ながら、幅広い山行形態が楽しめます。茨城県の魅力度ランキングは最下位を継続していますが、雪の心配のない、海の見える里山が県内、近県の登山愛好者を集めています。

自然保護委員会では、一般募集の清掃登山を年2回開催しています。身近な里山の自然や山岳形成の歴史などを含めてジオパークに解説をお願いしており、身近な自然に親しむ事で、登山愛好者が増え、併せて自然保護に興味を持って頂ける事を目指しています。

## 3. 活動報告 (昨年度報告以降、実施済み:H29/8-H30/10、予定:H30/11-H31/3)

(H29年度)

### 3.1 日山協主催、第41回山岳自然保護の集い 白山大会(H29年度自然保護委員総会) 9/9-10(土・日)

石川県白山市 参加者1名(常任委員)

### 3.2 関東地区自然保護交流会 10/21-22(土・日) 東京都山岳連盟主管 雲取山 2017m

天候悪化で鴨沢山の家での集いに縮小。奥多摩小屋の廃止問題を討議。参加者2名

### 3.3 筑波山清掃登山 12月3(日) 筑波山 一般募集 紅葉の混雑が一段落した時期に毎年開催。

1)参加者と概況:岳連所属5団体、56名、岳連未加盟1団体1名、個人参加2名 合計59名

山麓の筑波山神社から御幸ヶ原に至る2コース(①つつじヶ丘経由、②ケーブルカー沿いに登るコース)を例年のコースとしていたが、今回は参加者が少なく、希望が②に集中した事と、委員の参加が少なく2コースの編成が難しい状況になり、②の1コースだけでの開催とした。11月に茨城県山岳連盟の山の日記念のハイキング行事に注力した事で、宣伝活動が低調だった要因か、こじんまりとした集まりになった。

2)収集ごみの状況:1コースだけだった事と投棄ゴミが少なく、分別した袋を1袋に纏めて、一人で下ろした。

処分は例年通り、筑波山神社にお願いした。(1袋は約100×120cm 公称120L)

・空き缶、金属類、1/10袋、・ガラス瓶、ガラス屑1/8袋、・プラスチック屑、紙類、1/4袋

3)特記事項:昨年に引き続き、つくば市、及び筑波山地域ジオパーク推進協議会の後援を得て、コースの主要ポイントで筑波山地域の自然の解説を行って頂いた。

4)総括 お天気に恵まれ、登山道の泥濘・凍結は無く、歩き易い一日だった。穏やかな天候で初冬の日を楽しみ過ぎて頂いた事を期待する。自然保護委員の参加が少なく、1コース59名の役員編成が限界。

(H30年度)

### 3.4 神峰山・高鈴山清掃登山 4/22(日) 高鈴山・神峰山 一般募集 桜の開花時期狙いで毎年開催。

1)参加者と概況:岳連所属7団体、38名、岳連未加盟1団体10名(県北ジオパーク関係者)、個人参加8名 合計56名(コース別:A(高鈴山)34名、B(神峰山)22名)

登山コースの投棄ゴミは少なく例年通りきれいである。高鈴山頂は展望台周辺の成長した樹木が伐採されて県北方向の眺望が良くなったが、西の栃木県方面の眺望は樹木に遮られて良くは見えない。登山口の駐車場周辺の大型の不法投棄ゴミは処理されており、ペットボトルや空き缶が目立つ程度で、きれいになった。ゴミが投棄されていた縁石の内側に三色すみれが咲き、ゴミを棄て難くしているようだ。

2) 収集ごみの状況:

- ・空き缶、金属類 2/3袋、
- ・ガラス瓶、ガラス屑類 1/3袋、
- ・可燃ごみ 3袋(各8割程度)、
- ・粗大ゴミ 1/2袋、
- ・ペットボトル 1/2袋

(ごみ袋は約 90×100cm、公称90L、翌日、日立市清掃センターに収集して頂いた)

3) 特記事項:今年も 日立市の後援が得られ、ジオネット日立(茨城県北ジオパーク)の共催により、コース上のポイントでジオパークの解説をして頂き、登山プラスαの楽しみ方を得る事が出来た。

4) 総括:春先から暖かな日が続き、桜は散り果てだったが、晴天の下、暑さ対策を心配するくらいの一昨日、山桜が僅かに咲き残るコースの一昨日を楽しんで頂けたと思う。参加者が高齢化(平均年齢 65.5歳)しており、コース選定が課題となりつつある。

6) 清掃登山終了後、自然保護委員会の総会を開催。前年の活動報告、今年度の予定等を打合せた。

出席者 12名

3. 5 身近な水環境の全国一斉調査:県内の河川 2 地点で COD、水温を調査 6/3(日) 参加 4 名  
 全国規模のイベントに毎年参加し、測定結果を報告している。測定ポイントは鮎釣りの名所で昨年同様に賑わっている。清流で濁りは無く、水量は少な目。橋上から魚影が見えた。

場所	水温(°C)	気温(°C)	COD(1/2/3)回目(mgO/L)
1)那珂川(千代橋左岸橋下)	21.5	24.5	3/2/2
2)久慈川(湯の里大橋右岸橋下)	21.5	29	4/6/4

2地点とも昨年比 1~2 増えている。傾向として続くのか、一過性か継続調査が大切と感じる。

3. 6 関東地区自然保護交流会 8/25-26(土・日)雲取山 雲取山荘 欠席

昨年に引き続き、都岳連主催での雲取山開催。他の行事が先約で決まっており、都合が付かず、欠席。

(H30 年度 今後の予定)

3. 7 11/23-25(金-日):第 42 回 日山協自然保護委員総会 山岳自然保護の集い 中央大会 開催地:埼玉県

3. 8 12/2(日) 一般募集:筑波山清掃登山

<活動状況紹介写真>

筑波山清掃登山



高鈴山・神峰山清掃登山



## 栃木県山岳・スポーツクライミング連盟 自然保護委員会の活動状況

### はじめに

本委員会は、江崎裕之委員長、奈良忠男副委員長、速水敬子委員長をはじめとして、顧問4名を含む21名で構成されている。メンバーには地元の山をこよなく愛する者から、海外登山の経験者もいる。さまざまな経験をち、山を愛する者たちで委員会は運営されている。

### 1 活動内容

本委員会においては、山に関係するさまざまな個人や企業の協力を得ながら、地元の山々の自然保護の啓発・PR活動を行っている。

#### (1) 主催事業

- ①山岳自然保護の集い（日光清掃登山）・・・例年7月の第1日曜日 日光山系において実施
- ②那須クリーンキャンペーン&清掃登山・・・例年9月の第1日曜日 那須山系において実施
- ◆日光清掃登山・那須クリーンキャンペーン共に、市役所・町役場、観光協会、ロープウェイやホテル・旅館、商店などの協力・支援を得ながら、事業の円滑な運営と参加者が満足感を得られるよう努力している。

#### (2) 上部団体関連

- ①常任委員会研修会
- ②関東地区自然保護交流会
- ③山岳自然保護の集い中央大会
- ④日山協自然保護指導員研修会
- ◆積極的な参加・動員を目指すために、委員同士の連絡を緊密にしている。

### 2 課題と展望

これからの委員会の運営に必要なこととして、次のようなことが考えられる。

- (1) 委員会の後継者養成と情報・知識伝達の円滑化
- (2) 現代の「自然保護」の多様化と複雑化、グローバル化に対する取り組み
- ◆自然保護や環境美化に情熱をもって取り組める人材の確保と育成は急務である。また、従来の「動植物を守ろう。ゴミ捨てをなくそう」の範疇を超える、国内外規模での『環境問題』にどう取り組むか、各山岳会・連盟での内部調整や外部との連携・協力が求められる。

### おわりに

今年度の日光清掃登山の新聞記事（地元紙「下野新聞」に掲載）を紹介して「おわりに」とする。

【日光】県山岳・スポーツクライミング連盟と日本山岳会栃木支部は6月30日と7月1日の両日、日光地区で山岳自然保護の集い「第45回日光清掃登山」を開き、128人が参加した。

30日は日光湯元ビジターセンターで講演会を開催。県自然保護環境課丸山氏が、「奥日光におけるこれまでのシカ対策」と題し、シカによる被害の拡大防止の取組を語った。

1日は奥白根山や太郎山、戦場ヶ原などで清掃登山を実施。参加者たちは登山道のごみを丁寧に拾い、それぞれが持ち帰った。休憩場所周辺のごみが目立ったという。

同連盟の自然保護委員長の江崎裕之さんは「登山者一人一人が意識しているので、登山道のごみは少なくなった。9月2日には那須でクリーンキャンペーンを行い、自然保護の啓発を続けたい。」と話していた。



日光白根山頂での清掃活動

## 平成30年度群馬岳連自然保護委員会事業計画

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

### 平成30年度重点課題

- ① 自然観察会(岳人ならではの観察会)の実施
- ② 日山協自然保護指導員有資格者の組織化と連携及び増員(拡大・強化)
- ③ 山岳地自然環境保護活動に必要な事業及び他との連携

月	日	行 事 名	場 所・会 場
4	10(火)	自然保護委員会総会	前橋山岳会例会場
5	8(火)	第1回 委員会	前橋山岳会例会場
6	2(土)	尾瀬ごみ持ち帰り運動	大清水口
6	3(日)	群馬岳連自然観察会	榛名・三ツ峰山
6	3(日)	群馬県春の環境美化運動	
6	9(土)	群馬岳連総会	
6	9(土)10(日)	ぐんま山フェスタ	群馬県庁
6	16(土)～18(月)	日山協全日本登山大会	京都府京都市、亀岡市
7	1(日)	谷川岳山開き・清掃登山	谷川土合口
7	10(火)	第2回 委員会	前橋山岳会例会場
8	11(土祝)	山の日イベントin谷川岳、21世紀の森まつり	みなかみ町、沼田市
		日山協自然保護委員全国総会	
9	11(火)	第3回 委員会	前橋山岳会例会場
9	22(土)～24(月)	上州武尊ウルトラスカイビュートレイルラン大会	武尊山周辺
		日山協関東地区自然保護交流会	(山梨県)
10	(14日)	県民登山大会兼群馬県秋の環境美化運動	(野反湖周辺)
11	13(火)	第4回 委員会	前橋山岳会例会場
12	8(土)	群馬岳連忘年会	
12	(日)	日光国立公園自然公園指導員意見交換会	栃木県那須町
1	8(火)	第5回 委員会	前橋山岳会例会場
2	2(土)	関東地区山岳連盟総会	茨城県
2		自然保護委員会宿泊研修	みなかみ町吾妻耶山
3	12(火)	第6回 委員会	前橋山岳会例会場

29-30年度埼玉県自然保護委員会活動報告

(29年9月～ )

- 9/9-11 第1回自然保護委員総会 山岳自然の集い (石川白山大会)  
10-11 白山登山 14名参加
- 10/21-22 J M S C A 関東ブロック自然保護交流会 7名  
議案 奥多摩小屋廃止に関わる野営場・トイレ維持等の協議 鴨沢山の家
- 11/3 埼玉県自然保護指導員研修会 43名  
公開講演 『秩父山地の成り立ちと生い立ち』  
講師： 本間岳史 (元埼玉県自然博物館館長・県文化財保護審議会委員)  
関東平野より海底隆起など特異な地層形成の秩父山域を学ぶ。
- 2018.1/21 J M S C A 自然保護委員会指導員研修会  
・指導員研修受講と講演会『人の森への関わり』(過去にも見られる森林破壊)  
オリンピック記念青少年総合センター
- 2/3 関東岳連総会自然保護委員会分科会 (於)群馬県川場
- 3/11 第2回山岳自然環境セミナー 23名  
続『山の自然が崩壊する・深刻化する鹿の食害』  
西欧に見られる狩猟文化を考え、鹿の食害パネルディスカッション。  
オリンピック記念青少年総合センター
- 4/01 第2回カタクリ自生地調査活動 27名  
美里町円良田地区 カタクリ観察と保護状況など検証
- 4/7 埼玉山岳連盟自然保護委員会総会 北浦和カルタスホール  
・総会 ・講演会：上 幸雄 『携帯トイレと自然保護』
- 5/15-6/30 環境月間 クリーン登山 県内の山のトイレ事情の調査報告
- 6/2 大高取山自然観察会 『山の日イベント』事前学習を兼ねる。  
講師 本間岳史 (元埼玉県自然博物館館長・県文化財保護審議会委員)  
大高取山の逆転二重構造の地層を学ぶ
- 6/9 山梨山岳連盟70周年記念事業 高山植物学習会に参加 三つ峠山  
稀少植物の観察と保護活動(除草刈り)に参加
- 7/15 J M S C A 自然保護委員会常任委員研修会  
オリンピック記念青少年総合センター
- 8/25-26 J M S C A 関東ブロック自然保護交流会 雲取山荘泊  
・奥多摩小屋廃止以降の状況報告と山の安全についての講話を聴講する。

# 東京都山岳連盟自然保護委員会活動の記録(抄)

(期間 自2018年9月1日至2018年10月31日迄)

公益社団法人東京都山岳連盟(以下都岳連)自然保護委員会は、現在26名の専門委員により、約210名の都岳連傘下の自然保護指導員の協力の下、主として秩父・多摩・甲斐国立公園を中心に①啓もう活動、②山岳環境保全活動、③山岳環境調査活動、④委員研修・講習会の4つを柱に、年間20以上の活動を活発に行っている。

## ①の活動 ●高尾山クリーンキャンペーン

活動日 6月3日

参加者数 140名 自然に優しい山歩きをアピールしながらの清掃山行

### ●自然観察会

活動日 2017年秋(10月15日)、2018年春(4月22日)・秋(山の日記念自然観察会を兼ねる10月14日)、

参加者数 32名\*雨天 23名 19名\*雨天 (いずれもスタッフ込)

他に 山の日記念自然観察会「里山歩きで見つける生き物の息づかい(2017.10.29)」は台風のため中止

### ●おもしろ地球観察会

日本列島誕生や暮らしの歴史を訪ねる初心者向け地質、地学、歴史などの観察会

活動日 2017年度(3月4日)、2018年度(9月15日)

参加者数 45名 33名\*雨天 (いずれもスタッフ込)



2018/6/3 毎年環境月間6月の第一日曜日に開催



2017/10/15



2018/4/22



2018/10/14



2018/3/4



2018/9/15

\*いずれも参加者数減少傾向、企画の見直し、PR方法等要検討

## ②の活動 カタクリパトロール

パトロール期間 自4月14日～5月6日(カタクリ開花期に随時 初日には18名で4コースに分かれ一斉調査)

主な活動 シカ食害調査のためのコース上のカタクリ分布調査(緯度・経度で地点特定)、1平方メートル四方の定点観測地内のカタクリ株数カウント

\* これまで行っていたカタクリ保護柵の設置は行わなかった

分布調査シート



春の妖精



結実した株(左)と食害の株

③の活動 ●全国一斉水質調査への参加 (6月2・3日)

調査ポイント 御前山5ポイント (6月2日) 高尾山2ポイント (6月3日)

調査項目 1)測定時刻、2)天候、3)気温 4)水温、5)COD \*高尾山のポイントで数年に渡り水質の悪化が心配されるデータが出ており、再調査 (11/18)

●雲取山 (東京都最高峰 2017m) 調査山行

調査日 12月9～10日、8月25～26日(日山協関東地区交流会)、10月20～21日(奥多摩登山学校)

調査項目 シカの食害による樹木の立枯れ状況、

雲取山荘の夏季のバイオトイレ、冬季の蛸殻トイレ、避難小屋トイレの利用状況

◎2018年3月に閉鎖される奥多摩小屋の今後につき環境省・東京都・奥多摩町に意見申し入れ



御前山落葉樹の広場等の水質をCOD比色表でチェック (2018/6/2)



奥多摩小屋テント場での署名活動 (2017/12/9)



石尾根の定点観測 (2018/10/21)



2017年記念道標の建つ雲取山頂 (2017/12/9)



2018年の山頂道標 (2018. 8. 25)



閉鎖の決まった奥多摩小屋と一部解体された小屋内部 (2018/8/25)



奥多摩小屋テント場 (ヘリポートにも設営) (2018/10/20)



石尾根マルバダケブキ(シカは食さない)と鹿柵内の植物 (2018/8/25)



④の活動 自然保護指導員の新規および更新のための研修および情報交換

指導員講習会(新規 6月24日 11名、更新 1月21日 日山協自然保護委員研修会を兼ねる 52名)

専門委員の研修 2月17日 明治神宮、9月29日 国立科学博物館筑波実験植物園

等々



携帯トイレを紹介しています [keitaitoile@gmail.com](mailto:keitaitoile@gmail.com) ()

●原則毎月第4火曜日に定例委員会を開催し、各種活動につき討議を行っている

詳細は (公) 東京都山岳連盟 HP 自然保護委員会から <https://www.togakur>

## 1. 委員会構成概要

自然保護委員会関係の構成概要は次表の通り。

構成名称	構成員数 (人)
自然保護委員会	21
自然保護指導員	67 (6 増)
環境省自然公園指導員	35 (1 減)
森林づくりボランティア活動実行委員会	15

## 2. 活動概要

## 1) クリーン活動

◆丹沢大山クリンピア 21 活動 (各山岳協会・自然保護指導員・自然公園指導員が連携 通年)  
ゴミ持ち帰り運動に参加。平成 29 月年度分活動実績は次表の通り。

活動	実施回数	参加者数 (名)		回収ゴミ	
		男	女	可燃	不燃
H29 年度 (H29/3/1~H30/2/28)	54	243	206	122	57

※広沢寺岩場清掃集会 (広沢寺の岩場を守る会) への参加協力も行っている。

## 2) 自然再生活動

◆第八回環境登山 (パートⅠ : 30/5/21、パートⅡ : H31/2 予定)

山岳地 (丹沢山塊) の崩落跡の裸地の植生回復を目指した植栽を行っている。年 2 回の集合活動を実施し、春には植栽、早春 (萌芽期) に苗木の点検保守を実施予定。



◆森林づくりボランティア活動 (通年 晩秋~春)

清川村の県有水源林の約 8 ヘクタールを使い、県助成金をバックに森林づくりボランティア活動を実施している。放置され荒れた旧里山の林地を健全な森林に回復活動を実践した。(第 80 回~。年間 10 回予定)



◆登山道補修ボランティア (H29/11/1~)

神奈川県と H29~H34 年の間の委託契約を締結し、丹沢大山国定公園内の登山道 (ヤビツ峠・大山線) の補修を実施。



### 3) 教育・研鑽活動

#### ◆山の自然セミナー (H30/3/25~3/26)

第六回山の自然セミナーを県立山岳スポーツセンター及び丹沢ニノ塔にて1泊2日で開催。第一日目は県職(自然公園課・公園レンジャー)を講師に「自然公園と登山道」を聴講。第二日目丹沢大山国定公園内の登山道(ヤビツ峠・大山線)にて実習した。このセミナーが本年度から神奈川県委託事業として昇格。



### 4) 調査活動

#### ◆登山者数カウンター調査 (通年 毎月)

神奈川県委託事業として丹沢・表尾根公園歩道2カ所の登山者数カウンター調査を毎月1回行った。この事業は平成26年から継続して実施。



#### ◆水環境調査 (H30/6/5)

世界環境デー(6月第一日曜)の前後に全国的に行われる身近な水環境全一斉調査に参加。連盟では2012年から地域の山岳会が行っていたもの拡大継承し、神奈川県西部地区20地点の河川にて調査を行ってきた。



### 5) 対外協力・啓発活動

- ◆丹沢大山自然環境再生委員会
- ◆丹沢大山ボランティアネットワーク
- ◆丹沢大山クランピア21実行委員会 ボランティア活動
- ◆かながわ県民と協働による森林づくり実行委員会 定着型ボランティア活動

### 6) 日山協活動への参加

- 1) 自然保護常任委員の推薦派遣3名(紅葉淳一、湯浅達男、松隈豊)
- 2) 開催事業への参加
  - ◆自然保護常任委員研修会(オリンピック記念青少年総合センター)
  - ◆自然常任委員総会 山岳自然保護の集い(比企郡小川町)
  - ◆関東地区山岳連盟自然保護交流会(雲取山・奥多摩山荘)
  - ◆自然指導員研修会(オリンピック記念青少年総合センター・予定)

### 7) 課題

- 1) 関係(官庁・民間地主)との調整(土地使用許可や委託契約・協議書の締結)など煩雑な事務作業
- 2) 立て替えによる資金繰り(県関係は事業完了後の清算払い)

## 山梨県山岳連盟・自然保護委員会活動

平成 30 年 11 月 23 日(金)

山梨県山岳連盟 自然保護委員会

委員長 磯野澄也

山梨県山岳連盟は昭和 23 年に設立され、今年度創立 70 周年を迎えました。記念事業として各委員会による催しを実施し、委員会では一般者も含めた高山植物学習会を実施しました。委員会の基本的活動は毎年同様ですが、今年もより高きを目指し多数展開しました。

### 自然保護委員会活動

山梨県山岳連盟の構成は 28 団体約 800 名と、他県に比べ少ない人数での活動になる。しかし山岳自然環境に恵まれ、山岳レインジャー活動を通じ自然環境保護への意識は高い。平成 30 年度の山岳レインジャー登録は 19 団体+委員会 163 名が登録された。レインジャーに先立つ学習会は 4 月に 2 回開催、延べ 102 名が受講した。そして 4 月から 9 月までの間、希少野生動植物種の生育調査活動がほぼ毎週延べ人員 400 名を超えるレインジャーにより実施した。山梨県内の南アルプス・八ヶ岳・秩父多摩甲斐の国立公園・国定公園、その他確認のあった高山帯・亜高山帯が対象で、毎週展開された。

委員会組織は各会より選抜された自然保護に関心がある方で構成され、岳連役員含め 43 名と年々増加している。奇数月毎に開催し自然保護に関する問題提起し改善に努めている。会議は再編足掛け 16 年で 92 回目を数えた。委員には高山植物に大変詳しい学者級のメンバーも多く、相互に研鑽を高め全体のレベル向上に繋がっている。メンバーには山梨大学・山梨学院大学の学生の山岳部の積極的参加もあり、幅広い年齢層のある委員会である。

### 山岳レインジャー活動

全国に先駆け山梨の高山帯の自然保護活動を目的に、昭和 56 年頃より山岳レインジャー活動が今年も前述の通り展開した。本年 3 月に山梨県レッドデータブックの改定が 13 年ぶりにあり、特定された指定種調査は変わらないものの、一部絶滅危惧種の入替えもあり一部実施要領書の内容変更に対応した。平成 20 年から希少野生動植物種の保護に改正され特定された絶滅危惧種 18 の指定種及び準ずる絶滅危惧種の調査活動は、11 年目に入り節目を迎えた。近年の地球温暖化の影響を受け高山植物の開花が早まっているため、昨年同様 4 月中旬から 9 月下旬までを調査活動範囲とした。

4 月に実施割振り表を各会に提示し協力頂いている。この割振りは大変複雑で、得手不得手も考慮し配置している。調査者は規定の調査表に記載、地図・写真を添付しレインジャー責任者に提出する。天候及び社会人山岳会故に予定日に入れなく変更等、例年余儀される。10 月には山岳レインジャー活動総括会議を開き、反省点を次年度に活かすようしている。11 月以降、各調査資料を分析し報告書として纏め県に提出している。膨大で大変手間のかかる作業であるが、経年ごとの記録は山梨の高山帯の植生分布の貴重なデータとなっている。

## 高山植物啓蒙活動と 70 周年記念事業

これらに先立ち実施要領を作成し、本年もレインジャー研修会を 2 回開催延べ 102 名が受講した。更に委員会による現地学習会を実施、既に 30 回を超え今年も 5 回延べ 107 名の参加となった。うち委員会の 70 周年記念事業として、6 月に三ツ峠にて一般も交え「高山植物を知り楽しむ」学習会を日帰り組と宿泊組として開催した。一般 25 名・山梨岳連 29 名・関東岳連 6 名の 60 名の参加があり、かけがえのない高山植物及び希少高山植物の保護の重要性を知り楽しんで頂いた。

これらを通じ山梨では年を重ねるごと高山植物に親しむ登山者が増加し、花を目的とした山行も大変多くなり、岳連全体のレベルアップになったことは間違いない。

### 自然保護活動から

レインジャー業務から浮彫りになることは例年同様であるが、地球温暖化による環境変化が見える。平成 18 年頃から二ホンジカの高山帯進出により、高山植物食害による裸地化及び植生変化は著しい。これは全国的な傾向で、次世代に向け防鹿柵・適正個体数などへの対策が急務で、国レベルで特に力を入れるべきである。また近年の激しい気象変化（降水量・気温・日照時間）により毎年、開花時期が左右され、年間の平均気温の上昇と共に開花が早まりつつあり、自然環境への影響をより注視していくべきと考える。

その他の取組みとして山岳トイレ整備には登山者の立場からの支援を行い、登山者増加に対し快適な環境づくりに協力したい。また維持管理費は辺地のため膨大な処理費が嵩むため、その価値に対し曖昧なチップ制は取りやめ、小銭持ち協力するよう世論に広報浸透すべきと提案する。更に年々増加傾向の登山者の安全に対し、主要山小屋には天候不順時の荒天時対策として雨宿りできる上屋等の整備に支援すべきではないかと考える。

### 里山の自然に親しむ

近年、年代を超え健康志向のため自然に親しむ人が増加している。下部温泉前にある醍醐山は標高 634m（近年の改定で 635m）で荒れ果てた里山を整備し、東京スカイツリー開業と共に山のスカイツリー「山と温泉」として世に売り出し 6 年を経過した。この間、標高差 400m の山は誰でも気軽に登山でき多くの方々が来訪された。これらを支援する組織「醍醐山を愛する会」は「進化する山」と捉え、春・秋の一斉登山の他、様々な活動により過疎の町に明るい話題を提供している。これらはコミュニティとして「醍醐山と下部温泉」ブログにて、楽天とフェイスブックにて毎日発信され、地域活性化に一助している。

### まとめ

8月11日が「山の日」として制定され祝日となり、全国的レベルで国民全体に周知浸透され、各種催し物が開催され、登山人口の増加に寄与し将来の登山界に明るい展望が開けてきています。山を通じ、より底辺を広げ多くの方々に山の自然の良さを知り親しんで頂きたいとします。行政には自然公園法第 1 条の「保護と活用」の目的を踏まえ、よりバランスのとれた施策と支援をお願いする次第です。山梨岳連の使命は、大変恵まれた山岳環境を後世へ継承すべき、自然保護活動に微力の範囲で今後も活動・継承して行きたいと思えます。

## 新潟県山岳協会自然保護委員会活動報告(2017～2018年)

### 1. 自然保護研修会

- ・H29年度秋季自然保護研修会(第66回) 参加者32名  
実施日 10月14日～15日  
実施地 阿賀野市出湯(五頭山山麓)  
テーマ 「五頭山塊の植物」  
講師 石沢 進氏(積雪地域植物研究所長)  
フィールド研修 五頭連峰(菱ヶ岳～五頭山) 参加者13名
- ・H30年度春季自然保護研修会(第67回) 参加者25名  
実施日 6月30日～7月1日  
実施地 妙高市池の平(妙高山山麓)  
テーマ 「日本の北限に生息するライチョウの現状とその保護の課題」  
講師 長野康之氏(国際自然環境アウトドア専門学校講師)  
フィールド研修 火打山ライチョウ生息地探訪 参加者23名
- ・H30年度秋季自然保護研修会(第68回) 参加者37名  
実施日 10月13日～14日  
実施地 三条市下田地区  
テーマ 「山歩きで楽しむ越後の樹木たち」  
講師 戸貝純夫氏(県緑化センター 花と緑のアドバイザー)  
フィールド研修 白根山(下田山塊) 参加者23名

### 2. 自然保護委員会開催

- 日時: H29年11月22日に開催
- 会場: 新潟県自治会館(新潟市) 出席5名

### 3. 外部山岳自然保護団体との連携

- ・飯豊連峰保全連絡会、朝日連峰保全協議会  
幹事あるいは団体会員、個人会員として会合に出席。活動計画立案、  
現地調査・保全作業に参加。  
H30年保全作業 8月、9月

### 保全作業実施箇所

朝日連峰・・・三方境 飯豊連峰・・・玄山道分岐

復元作業の効果は多くの対策箇所で現れてきているが、乾燥風衝地ではその成果がなかなか上がらない、もしくは更に荒廃が進んでいる。

新しい対策方法を案出、試行、モニタリングを実施中。

#### ・巻機山保全作業

- ・新潟県、南魚沼市の現地調査に同行 6月  
8合目の標識（植生復元中表示）設置箇所決定、踏込禁止ロープ設置場所決定、竜王ノ池脇道調査・・・登山道付け替えを検討

- ・巻機山景観保全ボランティアズの現地保全作業参加 8月

#### H30年保全箇所

竜王ノ池脇登山道水没対策、その上部登山道裸地に客土を実施

#### ・五頭山三ノ峰非難小屋荒廃対策プロジェクトに参加

県、地元自治体、森林監督署に管理、資金助成を交渉するも暗礁に乗り上げる。 資金調達に苦慮中。

#### 4. 新潟県環境企画課自然保護係との意見交換会

毎年11月に実施 出席 県山協12名 県3名

H29年11月22日 新潟県自治会館にて実施

県・・・妙高山、平ヶ岳、苗場山、飯豊連峰、巻機山等における事業説明  
県山協・・・平ヶ岳、栗ヶ岳、火打山、巻機山、朝日連峰、五頭山避難小屋等の状況を説明し、対策を要望

#### 5. その他

##### ・火打山ライチョウの現状

ライチョウの餌場となる風衝草原にイネ科の植物やミヤマハンノキ等が侵入、コケモモ、アオノツガザクラ等を覆いその繁茂域を急速に減少させている → 火打山ライチョウ生存にとり危機的状況 → 緊急にイネ科の植物を除去する必要がある → ボランティアを募っている

##### ・朝日連峰

以東岳非難小屋再建完了した

##### ・飯豊連峰

門内小屋屋根 本格修理完了した

胎内林道は復旧済み

## 長野県山岳協会の自然保護活動状況

当協会では日山協の組織形態に倣い普及指導部の中に自然保護委員会を設置している。委員会の構成は県内4支部から選出された自然保護委員と若干名の日山協自然保護指導員からなる。

### 【主な活動】

1. 長山協諏訪支部が主催する「八ヶ岳清掃登山」への協力。(今年で43回を数える)
2. 山行時に日山協自然保護指導員ワッペンと身分証明書を携帯して自然保護活動を行う。
3. 下記の長野県内各種自然保護団体と連携
  - ・乗鞍岳自動車利用適正化連絡協議会
  - ・長野県自然保護連盟
  - ・高山植物等保護対策協議会
4. 個人的に「長野県自然保護レンジャー」、「長野県ライチョウサポーター」に登録。

### 【課題】

1. 個人ベースに頼らず委員会組織としての活動を増やしたい
2. 北アルプスへのニホンジカ侵入防止とライチョウ保護

### 【特記事項】

- ・昨年度まで23名だった自然保護指導員が29名に増えた。

## 福井県山岳連盟・自然保護委員会報告書（平成 29 年度）

自然保護委員：大濃孝尚

福井県山岳連盟は今年の「福井しあわせ元気国体」競技役員として多くの会員が参加いたしました。

平成 29 年度活動（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月）

<五幡山（いつはたやま）と旧北陸トンネル群巡り>

平成 29 年 5 月 21 日（日） 6:00～18:00

南越前町 94 名

五幡山（428m）と万葉の古道・旧北陸トンネル群巡り

<里山と初夏の湿原散策>

平成 29 年 6 月 24 日（土） 7:00～17:30

敦賀市 34 名

池河内湿原・中池見湿地・天筒山を散策

<第 41 回日山 S C 協・自然保護委員総会>

平成 29 年 9 月 9 日（土）～10 日（日）

白山国立公園センター

<夜叉が池保全連絡調整会議（第 16 回）>

平成 30 年 2 月 26 日（月） 13:00～15:00

南越前町今庄 全体で 23 名

平成 29 年度ヤシャゲンゴロウ（全滅危惧種）保護管理対策調査報告があり生息数に変動はなかった。との報告有り

# 平成 30 年度 愛知県山岳連盟自然保護活動報告

愛知県山岳連盟 自然保護委員会

愛知県山岳連盟自然保護委員会は、自然保護に関する諸事業を企画・立案・実践し、自然保護に関する意識向上と所属団体ごとの親睦を目的に活動しています。

第 42 回 自然観察会・清掃登山 平成 29 年 11 月 12 日(日)

場所 愛知県犬山市 八層自然休養林 参加者 38 名

八層自然休養林において、自然観察会と清掃登山を実施。濃尾平野からほんの少しだけ山の中に入ったこの地に、溪谷美あり、岩峰ありの変化にとんだ景観があることに感動の声が上がった。昼食会は BBQ を準備。和気あいあいとした楽しい雰囲気の中で食事をするのができ、食後、全員が車座になって「山の歌」を熱唱し、親睦を深めた。



第 43 回 自然観察会 平成 30 年 5 月 12 日～13 日(土日)

場所 岐阜県高山市 国立乗鞍青少年交流の家 参加者 31 名

植物学者の小野木三郎先生を迎え、国立乗鞍青少年交流の家で自然観察会を実施。1 日目は、各会の親睦を兼ね、午前中、山菜の収穫活動を実施。午後、観察会の後、調理と試食。夜の講演会と 2 日目では、「飛騨の自然と自然保護について」の講演や自然保護とは何たるかの基本をしっかりと教えていただいた。



第 44 回 自然観察会・清掃登山 平成 30 年 6 月 9 日(土)

場所 福井県越前市ホノケ山 参加者 27 名

前回に引き続き、植物学者の小野木三郎先生を招き、「ブナの原生林を訪ねる」をテーマに、現地自然観察会と清掃登山を実施。登山道の大部分を占める峠道は、北陸道若狭脇往還・塩の道とも呼ばれ、ブナの原生林の中を走る「切通し」は深さ 6 メートルにも達し、この道の歴史を偲ぶことができた。



第 45 回 自然観察会 平成 30 年 9 月 29 日(土)

場所 愛知県瀬戸市 あいち海上の森センター参加者 32 名

「キノコの現地観察」をテーマに愛知万博の会場となったあいち海上の森で自然観察会を実施。キノコにおいては愛知県では第一人者である、木村修司先生を講師に迎えた。今年は例年のないキノコの大豊作。9 月に入ってから三重県の男性がキノコの食中毒で亡くなるという痛ましいニュースが飛び込み、参加者の関心は一段と高まっていた。

第 46 回 自然観察会 平成 30 年 10 月 28 日(日)

場所 岐阜県高山市清見町 せせらぎ街道西ウレ峠周辺 参加者 31 名

地元在住の講師、小野木三郎先生いわく、今年の紅葉はここ 10 年で最高とのこと。前日の旅番組の放映もあり、すさまじい人出の中、山頂までの自然歩道をピストンし、標高 1000 メートルの素晴らしい紅葉を堪能。鍋や BBQ の食事会也大盛り上がり。食事後、懐かしい「山の歌」を全員で合唱し、親睦を深めた。

## 三重県山岳連盟 自然保護委員会 活動報告

H29年5月 炭焼き体験 (12名)

(里山整備と伐採木の有効活用として炭焼きを行った。  
伐倒-材木カット-窯入れ-火入れ-窯出し-炭カット-BBQ)

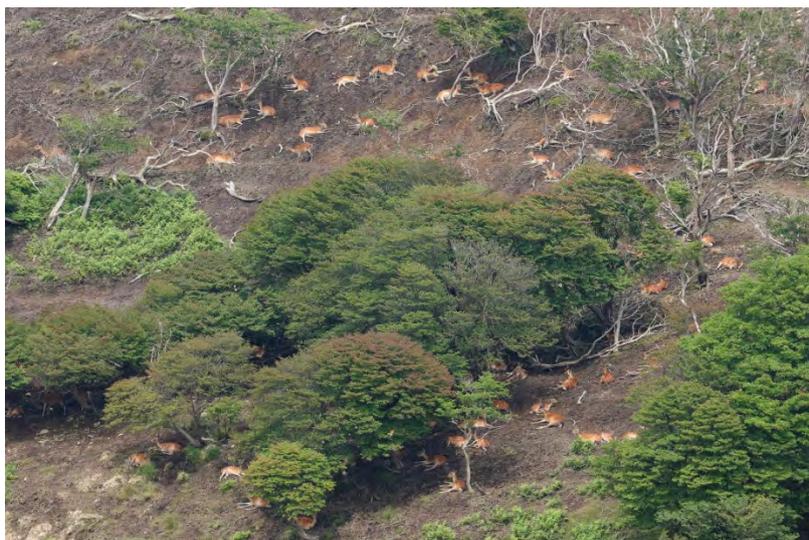


9月 自然保護全国大会参加 鈴鹿山系連絡協議会参加  
10-11月 自然保護月間

(各会山行にて清掃登山を行った。(7団体のべ79名))  
自然保護委員会・清掃登山+研修会 (19名)  
(鈴鹿山系の自然と現状について学ぶ)

H30年5月 自然観察山行 (19名)

(鈴鹿山系竜ヶ岳・裸地化視察とシロヤシオ。写真は過日)



10-11月 自然保護月間 (各会山行にて清掃登山を行う)

# 滋賀県山岳連盟 自然保護委員会 平成29年度活動報告

平成30年3月

自然保護委員会

## 1 次のような目的と方針で活動した。

○目的 滋賀県を中心とする登山道の調査や自然観察、清掃を行うことにより、自然への理解を深め、自然保護に対する意識を高める。

○方針 ①県内および周辺の山域で、自然に親しめる登山を年6回程度催す。

②安全で楽しい登山を第一とし、無理のない範囲でコースの調査、自然観察、清掃を行う。

③広く会員の協力を得て、みんなが楽しめる内容なども盛り込む。

## 2 実施状況

① 4月15日(土)【湖東：彦根城と佐和山城周辺の植物観察】

スタッフ腰痛で実施できず

② 5月6日(土)【番外：比良シャクナゲ尾根と八雲が原経過観察】

スタッフ腰痛のため実施できず

③ 5月20日(土)【低山：希望ヶ丘周辺を楽しむ】

5名にて実施。春の希望ヶ丘で植物観察等を楽しんだ。

④ 6月3日(土)【湖北：賤ヶ岳から山本山まで縦走】

実施できず。

⑤ 8月19日(土)【県外：京都トレイル2(蹴上～比叡山～坂本)】

13名にて実施。雲母坂や赤山禅院など楽しめた。

⑥ 12月2日(土)【湖西：湖西の低山歴史散策+野鳥観察】

5名にて実施。古墳巡りと野鳥観察を楽しんだ。

⑦ 12月16日(土)【湖南：東海自然歩道音羽山コースを歩く】

4名で実施。コースおよび周辺の歴史、自然を楽しめた。

⑧ 2月17日(土)【低山：朽木の低山に遊ぶ】

スタッフ体調不良のため実施できず。

## 3 総括

・スタッフの体調不良による中止が多く、迷惑をかけた。交代を考えるべき時にきている。

・上記⑧の歴史と野鳥のテーマ観察は楽しんでもらえたと思う。テーマを絞り込んだ山行も増やしていきたい。

「第50回 京都府下一斉清掃登山大会」 の記録

平成30年6月3日（日）実施

## 京都府下一斉清掃登山大会

—京都市・京都府下のハイキングコース—

京都一周トレイル・コースやハイキングコースを  
いっしょに清掃活動しませんか？

平成30年度

### 「第50回 京都府下一斉清掃登山大会」

主催：京都府山岳連盟 自然保護委員会



6月3日（日）午前9時～12時 雨天決行（大雨でない限り実施します）

京都市・京都府下の18コースを39団体の当連盟メンバーが中心になって、一般の市民・府民と一緒に清掃活動を実施。なお、コースによっては当日の多少の時間や場所の変更はあります。

どなたでも、希望のコースに参加できますが、小学生は保護者同伴でお願いします。お申し込み後、コース担当者からの連絡をお待ち下さい。

1 清掃登山大会18コース（括弧内は集合場所：担当者に要確認）



- A 大原・金毘羅山・金比羅ハイキングコース（戸寺バス停前）
- B 鞍馬～静原～大原江文神社（叡電鞍馬駅前）
- C ケーブル比叡駅～瓜生山～北白川（叡電出町柳駅前）
- D ニノ瀬～夜泣峠～向山～山幸橋（叡電出町柳駅前）
- E 氷室道（長坂口）～京見峠～氷室～山幸橋（市バス鷹ヶ峰源光庵前）
- F 京見峠～沢池～高雄（市バス鷹ヶ峰源光庵前）
- G 高雄～清滝～保津峡落合（市バス高雄バス停前）
- H 山科毘沙門堂～大文字山～銀閣寺（JR山科駅前）
- I 蹴上げ～南禅寺山～法然院  
（トレイル標識32番付近—地下鉄1番出口に係が待機）
- J 稻荷山～五条バス～栗田口（京阪伏見稻荷駅前）
- K 西山苔寺～松尾山～嵐山（京都バス苔寺バス停前）
- L 愛宕神社参道（JR保津峡駅前）
- M 天王山一帯（宝寺駐車場）
- N 大江山一帯（JR福知山駅前）
- O 半国山（JR亀岡駅前）
- P 牛松山ハイキングコース（保津橋北詰記念公園）
- Q 深草トレイル・コース（JR稻荷駅前）
- R 八瀬ケーブル～戸寺（叡電出町柳駅前）



- 2 参加費 無料（交通費各自負担）
- 3 清掃用具 軍手・ゴミ回収袋等は、集合場所で当日配付
- 4 参加希望者 必要事項記入の上、FAXで下記まで  
用紙に、希望コース、名前、年齢、性別、住所、TEL。あればメールアドレス

レスを記入のこと（1枚で複数参加申込者記入可）

※お申し込み後、コース担当者から、当日の詳細について連絡を入れます。  
コー

スの条件などにより、ご参加をお断りする場合もあるのでご了解下さい。

5 申込先 京都府山岳連盟事務局 F A X 075-692-3490

6 申込み締切り 5月28日（月）午後9時（期限厳守して下さい。）

7 問い合わせ 担当 山本まで

090-1443-0121

（詳細は、府山岳連盟 HP から専門委員会のページをご覧下さい）

## 平成30年度

### 「京都府下一斉清掃登山大会」実施コース

**実施日 平成30年6月3日（日）午前中**

A 大原・金毘羅山・金比羅ハイキングコース・・・・・・・・京都ホルン山岳会（◎伊佐）＋  
京都熊笹会

B 戸寺～大原江文神社～静原～鞍馬・・・・・・・・関西岩峰会（◎唐橋）＋  
ゼロクライマーズ・（加藤）

C ケーブル比叡駅～瓜生山～北白川・・・・・・・・京都比良山岳会（◎西田）

D ニノ瀬～夜泣峠～向山～山幸橋（新十三谷橋）・・・・・・・・京都市役所山岳部（◎木澤）

E 氷室道（長坂口）～京見峠～氷室～山幸橋（新十三谷橋）・・登山学校（◎尾松）

F 京見峠～沢池～高雄・・・・・・・・京都山岳会（◎中島）

G 高雄～清滝～保津峡落合・・・・・・・・京都下京山岳会（小尾）＋  
京都市交通局山岳部（◎岡田）

H 山科毘沙門堂～大文字山～銀閣寺・・・・・・・・京都雪稜クラブ（◎戸町）

+

- 京都皆子山岳会（前川）
- I 蹴上げ～南禅寺山～法然院・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都趣味登山会（◎増尾）
- J 稲荷山～五条ハイパス～粟田口・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都ゼニーツクラブ（◎吉村）＋三洋化成工業山岳会（福本）
- K 西山苔寺～松尾山～嵐山・・・・・・・・・・・・・・・・・・梢火山の会（泉田）＋京都稜線万歩会（◎杉村）
- L 愛宕神社表参道（JR保津峡駅—ツツジ尾根—神社—ツツジ尾根—JR保津峡駅）・・・・・・・・京都岳人クラブ（◎清水）
- M 天王山一帯・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都市中学体育連盟WV部（◎深見）＋GSユアサ（木村）
- N 大江山周辺・・・・・・・・・・・・・・・・・・福知山山岳会（◎外賀）
- O 半国山・・・・・・・・・・・・・・・・・・亀岡山岳会（◎梅井）
- P 牛松山ハイキングコース・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都・亀岡山の会（◎山本時夫）  
 ＋京都愛宕山岳会（萬所）  
 ＋パーソナル
- Q
- R 深草トレイル・コース・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都山の会（◎萩原）
- S 八瀬ケーブルー戸寺・・・・・・・・・・・・・・・・・・京都高体連登山専門部（田中）＋島津WV部（◎竹内）

（注）◎印＝各コースの責任者（清掃用具の受け取り・清掃活動後の集積ゴミの確認と報告担当者・写真送信担当）

以上38団体 18コース参加者数600名（うち一般60名） 集積ごみ154袋





京都府山岳連盟 自然保護委員会

## 京都府山岳連盟 自然保護委員会 —平成29年度実施事業他報告—

- 1 4月9日(日) 13:30— 岳連総会・懇親会 参加
- 2 4月11日(火) 委員会
- 3 5月9日(火) 観察会下見
- 4 5月9日(火) 委員会
- 5 5月14日(日)「府民 新緑観察会」
- 6 5月27日(土) 清掃用具受け取り 17:00-19:00 岳連事務所
- 7 5月30日(火) 委員会(清掃登山大会の最終打ち合わせ、
- 8 6月3日(土) 清掃用具配付午後4:00-6:00
- 9 6月4日(日) 京都府下一斉清掃登山大会
- 10 6月13日(火) 委員会
- 11 6月18日(日) 委員研修会(岩倉の風土)
- 12 7月11日(火) 委員会
- 13 9月12日(火) 委員会
- 14 9月9-10日(土・日) 公益社団法人 日本山岳協会  
自然保護委員総会(於 石川県白山市) 参加

- 15 10月7日(土) キノコ観察会  
 16 10月10日(火) 委員会  
 17 10月29-30日(土日) 鈴鹿連絡協議会 於滋賀県  
 18 10月21-22日(土日) 於 みなべ市  
 近畿地区自然保護委員連絡協議会(研修会—和歌山県岳連担当) 参  
 加  
 19 11月5日(日) 京都市まち美化推進啓蒙活動パレード参加  
 20 11月7日(火) 委員会  
 21 11月23日(木) 紅葉観察会  
 22 10月21-22日(土日) 近畿地区山岳連盟総合会議 於 滋  
 賀県 参加  
 23 12月12(火) 委員会  
 24 1月9日(火) 委員会  
 25 2月13日(火) 委員会  
 26 2月8日(木) 観察会下見  
 27 2月25日(日) 野鳥観察会  
 28 3月13(火) 委員会

上の通り、

- 「自然観察会」・・・4回  
 「委員研修会」・・・4回(観察会の下見を含む)  
 「委員会」・・・11回  
 「他会議への参加」・・・4回  
 「京都府下一斉清掃登山大会」・・・第49回(38団体・18コース・約600名  
 参加)

## 府民 新緑然観察会の報告

持続可能な東山をめざして・大文字△から如意ヶ岳の今

主催 京都府山岳連盟

主管 自然保護委員会

日時 2018年5月20日(日) 9:00~15:05

参加者 一般24名 委員9名 計33名

講師 (公社)日本山岳SC協会認定 自然保護指導員

中島睦美 委員 杉村忠重委員

行先 鹿ヶ谷~大文字山~如意ヶ岳

距離 約9km

コース

9:00 霊鑑寺 88m—9:10 浪切不動尊 160m9:28—9:53 楼門の滝—9:59 俊寛碑 315m—10:02 四季・彩の森 10:12—10:51 大文字山△464.4m 11:02—11:09 四辻—11:23 雨社の上 11:27—11:56 如意ヶ岳（昼食） 12:52—13:02 大アカガシ—13:26 雨社 430m13:29—13:47 大文字山—14:12 火床 14:25—15:00 八神社 88m15:07（解散）

報告 増尾翼

空は晴れているが吹く風は冷たい。鹿ヶ谷の霊鑑寺からさらに登って浪切不動尊の前に集合した。9:10 委員長挨拶があり、中島睦美委員から今日の観察のポイントについて説明があった。



高い山は将来平準化していくので崩壊は避けられない。それでも人間の生活は必要である。樹木がどんなに人間の文化を守っているか。持続可能な東山をめざし、自然とうまくつきあう観点が必要。きこりは自然破壊者ではないし、大文字山の火床付近のコンクリート塀、土石流を放置できないので藤尾のダムも必要かもしれない。持続可能な自然を作り上げていかなければならない。アカガシの林が残っているのは

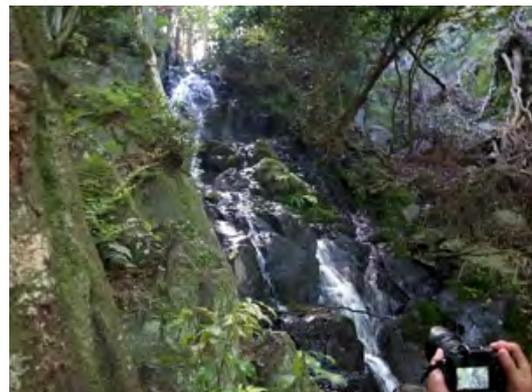
信仰の山として山林がまもられたためだろう。

太平洋の海底に積もった泥から出来た岩がプレートに乗って運ばれてきた。プレートの境目で地下からマグマが上昇した。地表に噴出する事なく地下深くでゆっくり（数万年をかけて）冷え固まり花崗岩になった。マグマの境界ではマグマの熱でホルンフェルスという熱変成岩に変わった。大文字山と比叡山の山頂部はホルンフェルス層で固く風化しにくい。そして大文字山と比叡山の中間部は花崗岩である。今回のルートはホルンフェルス層を西から東に登る。そういった事を実際に山を歩きながら確認していきます。

鹿ヶ谷の急な山道を歩くとモミジが多い。ホルンフェルス層にがっちり支えられている。エゴの白い花びらが落ちていた。楼門の滝に着いた。水量が多く、堅い岩から滔々と流れ落ちる滝をみあげた。

石の急な階段は迂回路で登り、階段の上あたりに如意寺（三井寺の別院）の「楼門」があったそうだ。標高 312m の地点には、「俊寛僧都忠誠之所」の石碑がある。後白河法皇・俊寛（1143～79）らが平清盛一族打倒の陰謀を、鹿ヶ谷で行なったとされる。

其の先で「四季・彩の森」に入っていった。土砂崩れの現場である。将来には彩の森になるとの願いを込めて京都市が、平成 23 年から植



樹などをおこなっている。平成 20 年頃から崩壊がはじまったと考えられ、カシノナガキクイムシによるナラ枯れの拡大が引き金 となり、雨で総崩れになった。深い所に楼門の滝の岩と同じ、ホルンフェルス層があり、土が何回も覆っている。ここに何を植えるか。適地適木でいく。シカの食害から幼木を守るためネットを張る。根を深く下ろすモミ、崩壊土に適したモミジ。ヤマザクラ、ナナカマドなどを植える。



次の崩壊地は 2 段になって平らな段と崩壊段があり、防鹿柵で囲っている。何年か後には彩りの森になることを期待しているが、其の通りになるとは限らない。マツは防災には役に立たない。神戸の生田神社の能舞殿にの鏡板マツでなく杉である。門松もマツを杉に変えている。洪水によって六甲山地から押し流されてきたマ

ツの流木によって神殿がつぶされてしまったという事件があった。

応急措置として土嚢が生まれ 彩りの森の破壊を阻止 松が生えているが、やがて競争に負ける。地質崩壊地点は背の 1.5 倍、4m 近くの段差になっている。土砂が積もるので樹木が長く育つのは難しい。どこからかキツツキが叩く音が聞こえる。



ここで歴史担当者から説明があった。



如意寺は三井寺の別院で円珍（814-891）の開基による。多くの塔頭があった。鹿ヶ谷の入口にあった霊鑑寺は如意輪観音 85cm をご本尊とする。如意とは意の如しの意味。皇女 後水尾天皇の皇女が創建。霊験あらたかな鏡の意味。本堂は 11 代将軍徳川家斉が寄進したもの。ツバキの花が咲く頃に開館する。

稜線に出た。ここで説明があった。アオハダ、リョウブはシカが好み、皮を剥ぎ樹液を飲む。

森林再生支援センターの藤田昇さんは適地適木を提唱。アカマツがなくなり、コナラ帯の二次林が増えた。モチツツジは堆積岩と花崗岩に、コバノミツバツツジは堆積岩、マツは堆積岩で酸性土壌を好む。ツツジの群生地は宝ヶ池周辺の山。

火床から登ってくる多くの登山者と出会いながら大文字山に着いた。良く晴れて、遠く、

大阪のビル群や生駒山まで見渡せる。

標高 465.4m で三等三角点と京都菱形基線測点がある。  
大文字山から東に下りる道でソヨゴが根返りしていた。

四辻から西へ行くと立派な林道が現れた。森を管理するためには必要かも。良く整備されて木漏れ日の射すヒノキとスギの林をすきると、

下の方に雨社の祠が見えた。枯れることがない綺麗な水が出る。あまごいが行われた。如意寺の一部だが、岡崎神社の摂社になり、今は藤尾神社が守っている。



さらに進んで皮がはがれているアカガシを見た。道にはアカガシの落葉が積もっている。アカガシの葉は葉柄が長いのが特徴で鋸歯がない。葉が大きいので表土が流れにくい。ド



ングリを探したが見つからない。近くにあったツクバネガシの葉は葉柄が短い。因みにシリブカガシは保津峡の南西の急斜面にある。ヤマザクラの木があった。

金網に囲まれた円盤型のドームがあらわれた。この中が金網に右に迂回しながら正面の広場にでた。如意ヶ嶽の山頂(標高 472m)である。ここで昼食になった。

「Oh! 賛山クラブ」の岡本さんと田中さんに

であった。

岡本さんから説明があった。この中に大阪航空局大津航空無線標識所の施設があり立入禁止になっている。重要な飛行ルートだが GPS の利用で設備は稼働していない(平成 5 年廃止)ので開放要求をしている。私達は 4 年前から三井寺から鹿ヶ谷への古道の復活に取り組んでいる。林道は遺跡を外した。ルートは 2/3 は京都、1/3 は大津で地権者が民間のところが多く中々許可してもらえなかったがやっと許可をもらえた。三井寺は 600 円の入山料がいるが、事前に連絡すれば無料で通過でき



るようになった。5月には雨社に黒い道標を建てた。如意寺は三井寺別院の山岳大寺院で大津から哲学の道付近まで勢力下にあった。三井寺は、白河上皇の熊野御幸の先達を勤めた功により、聖護院門跡（修験道の総本山）を頂点に熊野修験を統轄するようになった。楼門は西門に当たり、楼門の滝は那智の滝に見立てた。平地には如意寺の宝厳院熊野三所跡がある。

お話を聞いたあと、車道を少し東に歩いて大きなアカガシを見に行つた。幹の周りを8人で取巻いた。8mぐらいの樹径がある。巨大なアカガシがもう一本あつた。

引き返し雨社に向つた。途中でシライトソウをみつけた。雨社に入った。杉林の奥の赤龍社跡と伝わる池のそばに、鎮座している。



大文字火床に來た。京都の市街が足元に展開する迫力があつた。火床の坂を見下ろすと土壌の流出の跡など悲惨な情況が目に入る。土留めの杭が並んでいて、何とか崩壊を防ごとしてゐる。シカによって以前あつた植物は徹底的に食べられた。ススキはシカが食べないのでススキのある所は被害は少ない。シカはササが好きで食べられたところは茶色に見える。2010年頃、それまで保存会などが行つ

ていた大文字の草刈を、業者にかわつて全面的、徹底的な草刈がおこなつた。皆伐地にはダンドボロギクが一面に広がつた。2015年の大雨により、火床の土砂が流出した。数年後にはシカが嫌いのダンドボロギクが少なくなりハゲた所がおおくなつた。大の字の下部にはイノシシの掘り返しが目立つ。

北山の稜線が一直線に見える。京都盆地は東西の断層によって生じた地塁に囲まれている。崩壊地の中の石段を下りて千人塚にでた。ここはシデの林になっている。シデは幹に縦じま模様がある。自然の土がある高いところに残っている。京都市のデッドデータに載っている。アベマキは全滅したが、反面ウリハカエデが多くなつた。ウリハカエデは日当たりを好み、シカが嫌らうため淘汰に勝つた。

東に下りると谷筋にでて、ここに石切り場があつたが、2015年の大雨により上部が崩れ、コンクリートで固めている。H25年 H27年には大雨で銀閣寺まで土砂が流れた。急勾配をおりて八神社に着いた。本殿前にはセンダンの木がある。これは香木ではない。委員長挨拶がありここで解散。



## 府民 秋の自然観察会<記録> 天王山の秋色を楽しむ

主催 京都府山岳連盟  
主管 自然保護委員会

日時 2017年11月23日(木・祝) 9:30~15:05

参加者 一般39名 委員14名 計53名

講師 (公社)日本山岳SC協会認定 自然保護指導員  
尾松建二 委員 中島睦美 委員 岡田茂久 委員

写真 萩原孝一 報告 増尾翼

行先 JR山崎駅から天王山へ

距離 約9km

コース 9:30JR山崎 9:41-9:53 桜の広場 10:06-10:20 観音寺-10:42 青木葉谷広場 10:50

－10:58 旗立て松－11:13 十七烈士の墓」 11:15－11:25 酒解神社－11:52 天王山頂上（昼食） 12:27－13:22 小倉神社分岐－（引き返し）－13:56 酒解神社－14:19 旗立て松 14:26－14:33 青木葉谷広場－14:45 宝積寺－14:59 大山崎山荘美術館 15:04（解散）－15:13JR 山崎

テーマ 京都、大阪の境の山・天王山は天下分け目の戦いの例えによく登場する全国的に知られた山です。今回はこの山を散策し、この山に関わる歴史をしのび、



秋色を楽しみます。

JR 山崎駅前に集合。昨夜から雨だったが、朝から晴れている。委員長挨拶のあと、駅前の東側にある妙喜庵（みょうきあん）の説明があった。この庵に「待庵（たいあん）」という、国宝の茶室がある。日本最古の茶室建造物で千利休が建てた。

JR の踏切を渡り「天王山登り口」の石柱の道に入らず右折して JR の線路に沿って、山崎院跡（奈良時代行基が建てた寺）、蛇姫池、大山崎瓦窯跡（平安宮の瓦を焼いた）を経て「桜の広場公園」についた。

ここで紅葉の説明があった。大きな木はトウカエデ。中国原産で紅葉が美しい。葉は浅く 3 裂する。イロハカエデは真っ赤に紅葉している。葉は掌状に 5～7 に深裂する。

秋に葉が赤くなるのは、緑色のクロロフィルが壊れて葉の緑色が弱くなり、葉に含まれていたカロチノイドの黄色がめだつ。一方、葉を落とす準備のため葉の根元に離層ができ、葉で合成された糖分が葉に留まる。イロハカエデなど赤く紅葉する葉は、糖分から赤い色素アントシアニンをつくっている。イチョウやタカノツメ等の黄色の葉は赤い色素をつくらぬ。



紅葉の条件 ・気温が低い・日当たりが良い・温度差が大きい・乾燥し過ぎない。今年は紅葉の条件が良い。ではなぜ効率に厳しいはずの植物がアントシアニンのようなものをわざわざ作るのか？

「山崎聖天」と「観音寺」の石柱の立つ坂道を登った。稲荷神社のところまで右に入る。この辺りは桜が多かったが寿命で枯れて少なくなった。「観音寺」の前に「不許葷肉入山内」の石碑がある。「葷」は匂いのくさい物（ネギ・ニンニク・ニラなどのおいしの強い野菜）。

肉は古語でシシと読んだ（鹿と猪を指す）。因みに法然院は「不許葷辛酒肉入山門」になっていて皆そろっているが、観音寺のは辛（からいもの）と酒が抜けている。



観音寺は通称、山崎聖天（やまざきしょうてん）と言う古寺。本堂に来ると左手に歓喜天（かんぎてん）がまつられている。

住友吉左衛門友信が寄進した大灯籠、31日には除夜の鐘がつかれる鐘楼堂を見て登山道に出る。

急坂を登って途中から左へ曲がり細い竹林の道を進む。アオキは雌雄異株。山城の

タケノコは有名であるが、人間の高齢化で竹林は放置されていたが、最近ボランティアの人達が間伐している。

このため山は明るくなった。この辺は酸性土壌で、大阪層群の粘土質でタケノコの生育には適しているが働き手がないため、手入れができず、お金になるタケノコは出ない。ここから一列になって歩く。タケノコ運搬用のモノレールが続いている。

10:46 青木葉谷広場に着いた。大阪側の展望が開けている。淀川や枚方、高槻あたりまで見えるが遠くは霞んでいる。アベマキが黄色に紅葉している。葉の裏が白いのがアベマキ。クヌギの葉の裏はつるつるで黄緑色。



ここで歴史の説明があった。「秀吉の中国大返し」は今から 435 年前、本能寺の変で信長は自殺に追いやられた。このことを知らせる毛利に宛てた書状が手違いで秀吉の手に渡った。わずか 2 昼夜で姫路の居城に帰った。秀吉は 3 万～4 万の大軍を上牧に陣をはり、一方の明智は 1 万の軍で天王山

と淀川の湿地がせまる狭い所で構えた。明智には天王山からにらむ方が有利なことは分かっていたが、兵力が不足していたので、狭い所で戦わざるを得なかった。戦いは大山崎 IC あたりで、天王山東側から攻撃した秀吉軍に押され明智軍は勝竜寺城に引いた。勝竜寺城は舞鶴（田辺城）にいた細川藤孝（幽斎）の城。明智側は軍の数が違うため、狭い所で戦わざるを得なかった。

さらに横木の階段道をあえぎ登る。「旗立松」に着いた。「旗立」というが実際は味方の士気を高めるため千成瓢箪を立てたようだ。展望台からは老の坂を源流とし、洛西ニュータウンを経て桂川に合流する天下分け目の戦いのあった小畑川から勝竜寺城周辺が一望できる。「酒解神社」の石の鳥居からさらに登ると「十七烈士の墓」、長州藩の尊王攘夷派が「禁門の変」（1864 年）の戦いに敗れ 天王山中で十七人が切腹した所。追い詰めた新撰組

が遺体を宝積寺に下ろし葬ったが、後にこの地に改葬されたもの。「尊王攘夷」は孝明天皇がふと「朕は夷狄(いてき)は嫌いだ」と漏らされたのが始まりという説もある。

「十七烈士の墓」の右上にある大きな防火用貯水タンクは名神高速道天王山トンネルの湧水を汲み上げて貯水している。「酒解神社」の石の鳥居から登る。「十七烈士の墓」、長州藩の尊王攘夷派が「禁門の変」(1864年)の戦いに敗れ天王山中で十七人が切腹した所。追い詰めた新撰組が遺体を宝積寺に下ろし葬ったが、後にこの地に改葬されたもの。「尊王攘夷」は孝明天皇がふと「朕は夷狄(いてき)は嫌いだ」と漏らされたのが始まりという説もある。

さらに進むと、「三社宮」の祠が見えてくる。天照大神、月読大神、蛭子大神を祀っている。その先には、自玉手祭来酒解神社(たまでよりまつりきたるさかとけじんじゃ)がある。

大阪の柏原市の玉手か? 柏原市は箸墓と同じころの前期前半の古墳がいっぱいあり、それが前期後半になると消滅している(移動したのか?)。〇〇から来たという神社になるが、〇〇にいますという神社もある。蚕の社(右京区太秦)は木嶋坐天照御魂神社(このしまにますあまてるみたまじんじゃ)。天王山の名前の由来は、酒解神社は素戔男尊(スサノオノミコト)を相殿として祀っていたが、素戔男尊は牛頭天王と習合されたため、牛頭(ごず)天王を祀



った山崎天王社になり、山崎天王社から天王山になった。山崎は山の先の出っ張った所の意味。天照大神と素戔男尊はもともと対立していて、神社で分かれる。鎌倉時代の神輿庫は板倉形式で建設されたもので重要文化財。

神輿庫の上高くに黄色に紅葉しているのはカラスザンショウ。神社の休憩所の裏に巨大なモミの木(樹高 40m ぐらいか?)がたっている。さらに進み、急坂を登ると天王山頂上



である。

応仁の乱の頃の城が築かれた。明智光秀に勝利した羽柴秀吉は山頂に城を築き、居城とする。虎口、井戸、堀の遺構がある。

一段高くなった部分が標高 270.4m。現在は三角点がない。行政はもともと無かったと言っているが、国土地理院の昭和 60 年の地図に三角点の記載がある。今は十方山(304.3m)に三角点があり、

十方山分岐点には登山路の真ん中に白い図根点(三角点設置のための補助測量点=通常は

三角点設置後は撤去される) 標識が残り顔を出している。

本丸跡の一段下の郭には井戸跡がある。雨水を溜めたものか。いくつかの郭跡が残り、石垣跡のある東面から南面は、急な懸崖なり堅固な要害となっている。

本丸跡の広場で昼食になった。寒くなって日当たりに出たの食事。登山道に降りて北西に進む。

この辺りは岩山で松林だったが松は燃料に使われ、シイが多くなった。戦後の植林でアカマツが増えた。振り返ると城の堀跡の一部が見られる。道端にあったクロモジは臭いが良いので爪楊枝に使われる。

この辺りは数十年前まではアカマツの林だった。明治時代は木のない岩山だけの山。戦前は松が優勢でマツタケが出た。その後、森の木の様子が変わった。サントリーの地所になり、大山崎町と共同でマツタケ山にする計画があったが、無理だった。省エネ時代になり手入れしなくなると松は生きられなくなる。



マツは菌根菌と共生関係がある。菌根菌がマツの根に入り込んで養分を頂くと、菌根菌はマツに栄養をあたえる。皆伐採地にマツが芽をだすと共生がうまくいく。

下草をきれいに除いて日当たりがあるところにマツタケがでる。植村直己の故郷、豊岡市日高町の神鍋高原ではこのようにしてマツタケが育つようになった。

ツルリンドウの赤い実。タカノツメ、ソヨゴの実があった。葉は波のような音、5月開花、雌雄異株 直根がないため倒れ易い、倒木更新したのが見られる。

京都周辺の山、大文字でも。この辺り道を整備した。大山崎町と長岡京市との境界付近に来た。尾根から先は長岡京市、大山崎町がお金をかけて整備した。

アオハダ、ソヨゴがある。

ヤマコウバシは落葉しても次の葉がでるまでしつこく付けている。ヤマコウバシは離層が出来ないため自ら葉を落とさない。上賀茂神社の1月の行、御棚神事では、大きなヤマコウバシの枝に色鮮やかなキジをぶら下げていく。枯れたものが正月に



は芽吹く信仰。

ヤマモモ、ソヨゴを見る。道は台風 21 号で多くの木が倒れたため大山崎町と森林組合が倒木を整理した。

シブガキが成り、道の真ん中に図根点 カラスザンショウは高木で母サンショウに比べ格段に大きい。実はサンショウよりマイルドな味。小倉神社へ下りる道との分岐まで行って引き返す。

帰りは宝積寺（ほうしゃくじ）に出て、真っ赤な紅葉を見た。

宝積寺の閻魔堂には閻魔王像がある。

もともと西観音寺（天王山の西）にあったが、廃仏毀釈で民衆の打ちこわしにあった。

比叡山に逃げ帰って廃寺となり、閻魔王像などの宝物は宝積寺に預けた。

アサヒビール大山崎山荘美術館の紅葉を満喫して解散になった。





## 平成 29 年度大阪府山岳連盟における自然保護活動状況

### 自然に親しみ自然に学ぶ

大阪府山岳連盟自然保護委員会は、山の自然環境保全に関連する諸事業を企画・立案・実践を通じて献身的な奉仕活動と啓発運動を続けています。

#### 「取り組み状況」



平成 29 年 4 月 29 日  
金剛山登山口における「みどりの募金」活動



平成 29 年 7 月 15 日～17 日  
大阪府岳連有志にて福岡県東峰村へ災害ボランティア派遣



平成 29 年 8 月 11 日 市ヶ原～ドントリッチにて「山の日制定記念クリーンハイキング」



平成 29 年 10 月 1 日  
六甲山・高座の滝前にて、藤木祭を実施  
(日本山岳会関西支部・兵庫県山岳連盟と共催)



平成 29 年 10 月 15 日  
生駒(交野～高安山)チャレンジ登山大会にて  
自然保護啓発活動を実施

# 平成30年度 自然保護委員会事業報告

鳥取県山岳・スポーツクライミング協会

NO	月 日	活動内容
1	4月2日	環境省自然公園指導員委嘱通知10名分受け取り(新規 9名)
2	4月5日	午前 大山美化パトロール
3	"	午後 大山頂上を保護する会、美化を推進する会役員会 (頂上碑の移設について)主体事業者、費用について
4	4月15日	午前 大山一斉清掃 午後 大山頂上を保護する会、美化を推進する会役員会総会
5	4月27日	鏡ヶ成擬宝珠山パトロール 烏ヶ山パトロール
6	4月28日	委員会会合
7	4月29日	江府町 毛無山パトロール
8	5月1日	鏡ヶ成湿原再生作業 13:00~烏ヶ山キャンプ場コース登山道点検
9	17日	大山夏山登山道 点検整備
10	20日	シーツサミット時一木一石運動呼びかけ
11	25日	木谷登山口~鳥越峠 登山道点検 登山口から徒歩1分の場所~枝折れにより道上にぶら下がり、倒木あり 森林管理署、江府町、環境省報告
12	25日	キンケイギク除去作業(榎水ミルクの里)10:00~
13	29日	石集め(一木一石運動用)・・・南光河原
14	6月3日	大山山開き マナーアップキャンペーン
15	13日	木谷登山口~鳥越峠 登山道点検 木谷登山口徒歩1分倒木処理、道標設置(3か所)駒鳥小屋周辺道標設置 梯子修理、登山道草刈り
16	7月13日	頂上碑移設地植生調査(頂上)
17	7月16日	鳥取県自然保護ボランティア研修会
18	7月22日	行者谷コース登山道整備用泥運び
19	7月30日	徳島岳連 風力発電計画反対署名41名分郵送
20	8月9日	山の日全国大会 協会ブース 出店準備(写真)準備完了
21	8月17日	自然公園指導員の会総会
22	8月17日	自然公園指導員の会に10名入会
23	8月23日	川床阿弥陀滝絶滅危惧種Ⅱ類 チョウジキク植生調査
24	8月25日	阿弥陀川 阿弥陀滝と三鈷東谷分岐に道標設置
25	9月11日	キャリアダウン 山岳協会員、
26	9月22, 23日	中国地区自然保護研修会(岡山)
27	9月29日	頂上を保護する会山頂保全作業再延期
28	10月2日	大山山頂保護作業
29	10月4日	9:30美化パトロール 12:30一斉清掃検討会
30	"	13:30頂上碑検討会
31	10月14日	秋季大山一斉清掃
	10月19日	秋季 鏡ヶ成湿原再生作業9:30~15:00
32	10月26日	秋季 鏡ヶ成湿原再生作業9:30~12:00
33	11月17日	木谷登山道鳥越峠手前で登山道修理
34	11月23, 24日	日山・SC協会自然保護委員会中央大会(埼玉)
35		



鏡ヶ成 烏ヶ山登山道が崩落し、登山者がやせ尾根のキャラ木を踏みつけて通るためキャラ木が半分枯れてきた。

鏡ヶ成湿原再生作業



鏡ヶ成湿原再生作業



烏ヶ山登山道に強風による倒木を多数確認



木谷登山口～鳥越峠 登山道点検



大山登山道点検整備



石集め(一木一石運動用)・・・南光河原



行者コース登山道砂利運び(1袋10kg 2～3袋づつ)



阿弥陀川東谷・阿弥陀滝分岐に道標



夏山登山道8合目、登山口より砂利の運び上げ 協会員27名参加



整備前

整備後



絶滅危惧種Ⅱ類チョウジキク



携帯トイレブース内部  
6合目避難小屋横に仮設



キャリーダウンで運び下す汚泥  
237本×2L



汚泥をパッキング中



山の日記念ブース



縦走路にコモ伏せしヤマヤナギの苗木を植栽



山頂碑の裏側の崩壊  
植付た苗木が成長し崩壊が  
減っている



2年前に縦走路南壁に椰子ネットを張り植栽実施  
崩壊が抑えられ苗木が根付きかけている



大山山頂で外来種イヌガヤ、オオバコの除去作業



平成31年度移設が決まった山頂碑(この景色は今年が見納め)



## 岡山県山岳 SC 連盟 活動報告

2018 年度中国 5 県合同自然保護研修会を実施致しました。

日 時：9 月 22 日(土)13 時～24 日(日)13 時

場 所：9 月 22 日(土)旧閑谷学校、和気美しい森(宿泊)

9 月 23 日(日)早朝：城跡(太鼓丸)散策、午前中：熊山登山・遺跡説明

参加人数：広島県 6 名、鳥取県 3 名、山口県 1 名、岡山県：宿泊 16 名、日帰り 7 名 計 33 名

研修内容

### 1) 旧閑谷学校 史跡見学

29 名の参加者を 2 班に分け、ガイドの案内で旧閑谷 学校を見学する。

### 2) 論語講座

国宝指定の講堂に於いて論語の講義を受けました。

### 3) 和気美しい森 研修会・親睦会・宿泊：17 時～

#### (1) 自然保護活動報告

- ・広島県：県岳連と広島駅弁との共同開発「山のおべんとう」の売上げの 1%が県岳連に入り、活動費に充当している。オーバーユース等々活発な活動の報告あり。
- ・鳥取県：高校生ボランティアを巻き込んだ大山の一斉清掃や登山道整備、山小屋トイレ残渣のキャリーダウン、行者谷コースの登山道の整備等々の活動の報告
- ・山口県：国体競技中心の活動に終始した。
- ・岡山県：研修会テーマ 山の弁当、登山者のマナー、携帯トイレ、獣害と自然保護の討議と、2018 年度の中国 5 県合同自然保護研修会への対応を報告

#### (2) 共通テーマ討議

- ・「山の弁当」残飯・容器など持ち帰る等マナーは向上しているが、ラーメン等の汁を捨てないようボトルに収納 or 吸収材に吸わせて持ち帰って欲しい。
- ・「オーバーユース」登る前にトイレは済ます。万一の場合は携帯トレを使いましょう。値段が高いのが難点だ
- ・登山道や木道を外れて歩かない。
- ・「その他」ダンボール製の簡易ギブスの紹介と、見本の回覧があり、今後の活用が期待される。

#### (3) 来年度の開催県

山口県から決意表明があり、感謝の拍手と参加協力するとの声も聞こえた。

#### (4) キャンプファイヤー・親睦会:21:00～23:00

9 月 23 日(日)

和気天神山(城跡・太鼓丸)散策 6:30～7:00

宿舎前広場に集まり準備運動したのち、天神山三等 三角点(409m)経由で太鼓丸まで往復。

#### 1) 熊山登山・史跡見学：23 日曇り 9:30～13:15

熊山の 4 合目駐車場よりスタートした。11:00 山頂(508m)にある熊山遺跡に到着。

県岳連の理事長で、史跡に詳しい岡山市文化財課の高橋 伸二氏より、熊山遺跡の説明を聞くお弁当を食べ、眺望を楽しむ。

12:15 下山開始、来た道を 4 合目駐車場まで引き返し、解散式を行う。

最後に、来年度開催予定の山口代表の大岡氏から、秋吉台を中心に中国 5 県合同自然保護研修会を行うので多数の参加を要請された。

13:15 全員無事に行事を終了し、来年度の再会を約束して解散した。皆様ご苦労さまでした。

(作：濱本 ) 津島 勝洋

tsushima@galaxy.ocn.ne.jp

(一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟普及部  
山岳環境保全に対する広島県山岳・スポーツクライミング連盟の取り組み

(一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟の概要

加盟団体；28団体、 加盟会員数；1,631名（内・個人会員 41名）

(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会の自然保護指導員数； 56名

I、自然保護活動への取り組み

1. (一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟では、活動組織の名称を「自然保護」→「自然環境保全」として取り組んでいる。登山者として自然環境の保全（登山をするフィールドの環境を守る事）に取り組むという意図。
2. これまで、清掃登山・登山道整備・西中国山地の看板立て・山や森の手入れ・「山のお弁当」開発・自然保護指導員研修会・それに伴う環境保全ボランティア活動・山の水場の水質検査（継続的に測定）等を行っている。

II、自然環境保全活動状況（2018年度）

1. 第17回ひろしま「山の日」県民の集い（2018年6月2～3日）  
県下16市町17会場で一斉実施。各会場では地元会員が山の手入れ等実施。
2. 水質検査（2018年7月、8月）  
県内6ヶ所の山岳での水質調査（水温、NH4、COD、NO2、NO3、PO4、PH、硬度、大腸菌等）を行った。検査は水質パックテストを使用し、簡易的に普及部員で行っている。  
山の水は、近年飲料水として使われる事が少なくなったが、環境の変化を見る意味合いとして検査を継続している。
3. 「山のお弁当」  
(一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟と広島駅弁（株）が共同開発した「山のお弁当」を広島駅弁（株）が販売。売上金の1%を自然環境基金として、連盟に寄贈。自然環境基金で水質検査キットを購入している。
4. 2018年度自然保護研修会（2018年8月19日）  
広島県北部の比婆山山麓にて、主に樹木について観察会を行った。45名の参加者があった。  
神話の山「比婆山」には「大トチ」があり、国の天然記念物指定された中では日本一の大きさ。  
県天然記念物老杉群1～3位、巨杉50本の内26本が熊野神社周辺にあり、天然記念物のブナ純林もある。  
樹医でもある講師の維持管理の努力と大切さを学んだ。  

5. 中国地方5県による「中国ブロック」自然保護研修会（2018年9月22、23日）  
今年2年目で岡山県山岳・スポーツクライミング連盟が担当して下さり、「旧閑谷学校」「和気美しの森」「赤磐市熊山」で開催。33名の参加者があり、広島県から6名が参加。  
「オーバーユース」「山の弁当」の共通テーマで意見交換を行った。  
中国ブロックの親交を深め、歴史、文化、自然を学び意義ある研修会となった。



# 支援員だより

発行者：山口県・公益財団法人山口県ひとづくり財団

## もくじ

- P 1、2 支援員さんの声
- P 2、3 講師寄稿：『“美しい秋吉台を守ろう！”が合言葉』『特別天然記念物「八代のツルおよびその渡来地」における保護活動』
- P 4 自然保護課からのお知らせ

## 支援員さんの声

### 蓋井島ヒゼンマユミの保全～是非来てください！～

井上 佑 (下関市在住)

昨年10月、数年ぶりに蓋井島に渡りました。山口県指定天然記念物ヒゼンマユミ群落(県：絶滅危惧ⅠB類)を覆う竹を再度伐採の為、カラスバト(県：絶滅危惧Ⅱ類)も飛び立つ山道に入りヤブを鉈で今季最初の道払い。西ヶ嶽山腹のヒゼンマユミ群落に着くと、竹葉が繁茂して樹木の判別も出来ない程真っ暗です。

当地の淡竹(ハチク、白竹、直径5センチ程)は高さ10mを越し、ヒゼンマユミに陽が当たらず、暖地性のヒゼンマユミは弱ります。竹は多少刈ったくらいでは



ヒゼンマユミ

翌年に繁殖増加します。竹は地上1mで切れば、つまずかないし、切られた竹はそれでも水養分を揚げ疲弊し枯れていきます。竹の根を弱めるのが目的です。刈った竹を運ぶ手間が惜しく、その場所に立て放置し、皆伐を優先しますが、竹の葉は枯れ、ヒゼンマユミの幼木にも陽が当たります。残念なのは、黄褐色のさく果が見当たらず、花が咲かなかったと推定されます。果実は、椿とともにカラスバトの餌であり、西ヶ嶽群落はカラスバトが同島の笠松群落から種を運んだ結果です。

6回島に通い、竹を刈り立て、笠松群落まで三ヶ所に案内標(左写真)を付け、山道も整備しました。今後は、両群落の伐った竹を東南側斜面下に運び、枝を落とします。是非、竹の片付けに来てください。



### ツルの里、八代に魅せられて！～保護支援員研修会にも参加して～

大野 伸夫 (周南市在住)

今年も10月24日に周南市八代に第一陣のナベツル成鳥2羽が渡来し、地元八代の住民とツル愛好家も大変喜び、その後12月16日迄に2陣3陣の計5羽が渡来しています。

今回私達、希少野生動植物種保護支援員が参加した「ナベツル<sup>なべつる</sup>の整備」は、毎年10月第1土曜日に八代の住民を先頭に県内外の団体・企業・個人の協力で実施する行事です。私達支援員研修会参加者は、数ヶ所<sup>なべつる</sup>に、2ヶ所で草刈り・運搬等に汗を流しました。大変酷な作業に全員が真剣に取り組んだ結果、見通しがよくなった<sup>なべつる</sup>の様子に、沢山のツルの飛来を予感しました。昼食は美味しい豚汁とおにぎりを八代の女性から御馳走頂き、午後は講師の希少野生動植物種保護に関する講義を受け終了しました。

八代へのナベツル渡来は明治40年に35羽、昭和15年には最多の355羽が渡来、其の後の渡来数は平衡から減少を辿り昭和53年は89羽、平成18年は9羽、その後10羽前後が現在迄続き、増加を願い、ツルを誘い込むデコイの設置等を行っています。



支援員研修会・ツルねぐら整備の様子

# 平成30年度自然保護委員会活動報告

徳島県山岳連盟自然保護委員会

## 自然保護委員会の活動内容

- 1) ミツマタ植樹活動への協力
- 2) 那賀町杉ノ尾神社の植樹の協力
- 3) 天神丸風力発電の反対署名運動

### 1) ミツマタ植樹活動への協力

平成29年8月には土付き苗が新しい葉をつけ根付いていたが30年5月26日に確認に行くと残念ながら全部枯れていた。土付き苗を本植えた。

### 2) 那賀町杉ノ尾神社の植樹の協力

地域住民の避難場所になっている神社が最近の異常気象での強風や大雨で、落下した杉、檜の枝や葉が側溝に入り、堰き止められて大量の水が溢れ出し、集落が危険な状態になっているので神社周りの森林を伐採した。

そのまま放置しておけばまた新たな災害につながります。

集落にはお年寄りしか住んでいないため、植樹の協力依頼があり、花桃、ケヤキ、しだれ桜、ミツマタ苗500本を植樹した。

### 3) 天神丸風力発電の反対署名運動

平成30年8月5日「山の日」制定記念イベントで剣山に行った時、見ノ越駐車場、頂上にて登山客に風力発電反対の署名をしてもらった。

